

まちづくりの目標（将来像）について

まちづくり会議で出た「つながる」というワードは、他にもよく出たワード「あいさつ」、「世代間交流」や「コミュニケーション」等を集約するワードであり、また、人口減少や少子高齢化、多様化するニーズに応えるまちづくりをしていくためには、行政だけでなく、町民や議会も一緒にまちづくりをしていく必要があります、まちづくりの目標（将来像）に掲げているとおりです。

こうしたことから、この「つなぐ」「つながる」「つなげる」といったワードをまちづくりの目標（将来像）が示すフレーズに入れたと考えています。

そこで、まちづくりの目標（将来像）について、これまでの各種結果等を踏まえ町策定委員会等により次の3案にまとめました。この3案のうち1案をまちづくりの目標（将来像）が示すワードとして選出たく、大井町総合計画審議会に諮問いたします。

まちづくりの目標（将来像）が示すフレーズ（案）
今つながる未来へのまちづくり
みんなでつなぐ未来
みんなで考えみんなでつなげる未来へ

【まちづくりの目標のフレーズ導入部分】

まちづくりの目標（将来像）

『

』

これまで、5期にわたる総合計画のもと、まちづくりを進めてきました。これまで培ってきたまちづくりを継承しつつ、次代を見据えた“大井町”をめざします。

施策の展開にあたっては、町の魅力である「自然」とバランスのとれた「便利」で住みやすいまちづくりを基本として、地震や風水害等の災害への備えを中心とした「安全」「安心」の施策、子育てを支援する施策や町民の健康の確保に関する施策などを充実させたまちづくりを推進していきます。

しかしながら、この先、人口減少や少子・高齢化がさらに進み、地域活動の担い手不足や安定した財源の確保が見通せないことにより、行政だけでは多様化する地域課題に対応することが厳しくなると予測されます。

こうした課題に対応するため、安定的な行財政運営を確保していくとともに、まちづくりを「自分事」として考え、町民・議会・行政それぞれの立場から知恵と力を出し合い、コミュニケーションを深めながら地域全体の「つながり」によって持続可能で活力あるまちづくりを推進していきます。